

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校東京ビジネス・アカデミー
設置者名	学校法人21世紀アカデメイア

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
ビジネス専門課程	オフィスビジネス 学科 ビジネスライセン ス専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	オフィスビジネス 学科 ビジネスコンピュ ーティング専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	オフィスビジネス 学科 ビジネス教養専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス 学科 ブライダルフラワ ー専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス 学科 フラワーショップ 専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス 学科 フラワーコーデ ィネーター専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 ビジネスマネジメ ント専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	

	経営学科 流通・マーケティング専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 グローバルビジネス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 会計ファイナンス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 宅建・FP専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 SNS マーケティング専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ITビジネス学科 プログラマー専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	AIシステム学科 AIエンジニア専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	AIシステム学科 データサイエンス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング専攻(2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	

	スポーツビジネス学科 スポーツショップ スタッフ専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ペットビジネス学科 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
文化・教養専門課程	愛玩動物看護学科 (3年制)	夜・ 通信	3,420 時間	80×3＝ 240 時間	
(備考) ・Ⅱ部夜間部のオフィスビジネス科、情報ビジネス科、経営学科、ファイナンシャル科、ビジネス英語科は募集停止中のため、在籍者なし。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

当校の所在地（東京都渋谷区代々木1丁目56-1）事務局にて開講授業科目一覧表を公開。開講授業科目一覧表の中で、教員の実務経験に関する説明とチェック欄あり。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校東京ビジネス・アカデミー
設置者名	学校法人21世紀アカデメイア

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP掲載の事業報告書9ページに記載 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6事業活動報告書.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	独立行政法人プロジェクトリーダー（現職）	2025年5月30日 ～ 2029年定時評議員会終結時	ガバナンスの強化
非常勤	大学教授（現職）	2025年5月30日 ～ 2029年定時評議員会終結時	ガバナンスの強化
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校東京ビジネス・アカデミー
設置者名	学校法人21世紀アカデメイア

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画の作成・公表に係る取組の概要) ＜授業計画の作成について＞ 授業計画、並びに各授業科目の作成は、次年度のカリキュラム策定からの経始である。カリキュラムについては、学生授業アンケート、講師ヒアリングの結果、さらには各業界並びに地域社会の職業人に対するニーズを適宜盛り込み、学則に基づく形でカリキュラムポリシーを考証のうえ、毎年調整を行っている。 各授業科目については、はじめに各学科会議でカリキュラムを踏まえた授業科目の設定、講義内容・形式について検証したうえで、学内会議において全体の調整と設定を行っている。その後、各授業科目の担当講師により具体的な授業内容が作成される。各授業科目の担当講師には、学内統一様式でのシラバスの作成と提出を義務付けている。シラバスには「授業科目名」、「授業方法」、「到達目標」、「授業内容」、「評価方法」、「授業計画」、「教科書」の記載項目があり、全科目共通で記載することを必須としている。提出されたシラバスは学内データベースに格納し、一元的に管理している。 ＜公表について＞ 翌年度の授業計画の作成については、12月から着手し、年度最終成績、就職実績、学生アンケートの反映を併せて3月まで調整を行う。3月の学内年度末会議にて授業計画が正式決定となる。学生には4月オリエンテーションにて授業計画を公表・配布する。授業シラバスについては各授業内で授業計画としての説明に用いるとともに、学内データベースに一元管理を行い、必要性に応じて参照に対応している。 ホームページにて、学内事務局に履修要綱(シラバス)閲覧用冊子の常設の旨と、閲覧の手続きを明記し、これを一般に公開している。	
授業計画の公表方法	履修要綱(シラバス)を閲覧用冊子として学内事務局に常設している。 閲覧の手続きについては印刷物を学生に配布。 ホームページにて、閲覧用冊子の常設の旨と、閲覧の手続きを公開している。 https://www.tsb-yyg.ac.jp/disclosure/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修意欲の把握については、定期的に学生アンケートを実施し、自身が受講している授業科目について、授業の進め方や評価方法に関し、適切であるか否かを含めた意見を集計している。

学内規則の細目にて、学内の成績評価、履修授業数、卒業要件について規定している。成績評価については、各学科で定める授業科目の考査の結果に基づき行われるものである。

以下、学生ハンドブック（学内規則集）抜粋を記載

【成績の評価】

成績評価は教科ごとに行われます。試験点のほか、出席状況、授業中の課題・小テストの評価等、また受講態度などを加味して評価されます。

【単位について】

90 分を 1 コマの授業とします。

1 コマの授業科目を既定の週数受講したうえで修得すると、1 単位として認定します。

【卒業要件】

卒業には、次の条件を全て満たすことが必要です。

- ①卒業認定の規定による単位取得がなされていること。
- ②職業人として社会での役割を果たせる能力・人間的特性をもっていること
- ③所定の学費を完納していること

【卒業に必要な単位数】

2 年制 62 単位、3 年制は 93 単位とします。

ただし、必要単位数の 40%を超えない範囲で、基本科目及び選択科目に替わり、特別単位認定で補填することができます。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) <成績評価について> 学業成績は各学科で定める授業科目の考査の結果によって評価される。各学科の配置科目の多様性への対応と、より公平性の高い指標の運用のため、GPAの設定と運用を行っている。 評点 100点～90点 評価 S 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 89点～80点 評価 A 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 79点～70点 評価 B 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 69点～60点 評価 C 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 59点～0点 評価 D 区分 不合格 学期毎に設定された選択科目を除く基本科目(15単位)について、その評価点合計平均を算出し、これを学年全体における成績評価値としている。 基本科目 評価点合計 / 15 = 成績評価値 <公開について> 成績評価方法については、学内規則に明記するほか、入学時オリエンテーションで学生に周知している。また考査の直前の授業時にも各授業科目の担当講師より説明・周知を行っている。 同内容をホームページで教育情報として一般に公開をしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	掲載： ・学生ハンドブック (学内規則集) ・ホームページで教育情報として一般に公開 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tba_evaluation_criteria_2025.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ＜ディプロマポリシー＞ 本校は、教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、社会人としてのマナー、国際人としてのコミュニケーション能力を身につけ、社会の中で、自己中心的ではなく、周囲と自分との関係を深く思うことのできる人材に対し称号を付与します。 以上を当校のディプロマポリシーと策定したうえで、学内規則に明記している。 ＜公表について＞ 卒業要件については、各学科が定める授業科目の履修に対して規定の単位数の取得を定めている。詳細については学内規則にその明記がなされている。 以下、学生ハンドブック（学内規則集）抜粋を記載 【卒業要件】 卒業には、次の条件を全て満たすことが必要です。 ①卒業認定の規定による単位取得がなされていること。 ②職業人として社会での役割を果たせる能力・人間的特性をもっていること ③所定の学費を完納していること 【卒業に必要な単位数】 2 年制 62 単位、3 年制は 93 単位とします。 ただし、必要単位数の 40%を超えない範囲で、基本科目及び選択科目に替わり、特別単位認定で補填することができます。 【留年について】 卒業に必要な単位数に満たない場合は、本人の希望により留年することができます。留年を希望する場合は、所定の手続きを経たのち、原則として翌年度の授業において、未修得の科目を履修することになります。（留学生は原則留年ができません） なお、在籍可能な年数は通常修業年限の 2 倍（2 年制は 4 年、3 年制は 6 年）までとなります。 同内容をホームページで教育情報として一般に公開をしている。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	掲載： ・ 学生ハンドブック（学内規則集） ・ ホームページで教育情報として一般に公開 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tba_graduation_certification_2025.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校東京ビジネス・アカデミー
設置者名	学校法人21世紀アカデメイア

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	最新情報をHPにて公表している。 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6貸借対照表.pdf
収支計算書又は損益計算書	最新情報をHPにて公表している。 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6損益計算書.pdf
財産目録	最新情報をHPにて公表している。 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6財産目録.pdf
事業報告書	最新情報をHPにて公表している。 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6事業活動報告書.pdf
監事による監査報告（書）	最新情報をHPにて公表している。 https://www.akademeia21.com/assets/pdf/r6/R6監査報告書.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

・オフィスビジネス学科 ビジネスライセンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	オフィスビジネス学科 ビジネスライセンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1200 単位時間	600 単位時間	480 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		23 人	0 人	5 人の内数	9 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	1 人 (6.7%)	14 人 (93.3%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	4 人	12.1%
（中途退学の主な理由） メンタルシックと怠惰による学習の遅れが主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・オフィスビジネス学科 ビジネスコンピューティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	オフィスビジネス学科 ビジネスコンピューティン グ専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1080 単位時間	720 単位時間	480 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		14 人	0 人	5 人の内数	9 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	1 人 (20%)	4 人 (80%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13 人	1 人	7.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・オフィスビジネス学科 ビジネス教養専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	オフィスビジネス学科 ビジネス教養専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間	1080 単位時間	720 単位時間	480 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		10 人	0 人	4 人の内数	9 人の内数	13 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 ブライダルフラワー専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	フラワービジネス学科 ブライダルフラワー専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	540 単位時間	1020 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		16 人	1 人	6 人の内数	9 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	1 人 (7.1%)
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	1 人	4.5%
（中途退学の主な理由） 学校不適応（メンタルシックや体調不良）が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 フラワーショップ専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	フラワービジネス学科 フラワーショップ専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	540 単位時間	1020 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		32 人	0 人	6 人の内数	9 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	1 人	3.6%
（中途退学の主な理由） 経済的理由が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 フラワーコーディネーター専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	フラワービジネス学科 フラワーコーディネーター 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	540 単位時間	1020 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		32 人	2 人	6 人の内数	9 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	13 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	3 人	9.7%
（中途退学の主な理由） メンタルシック、進路変更、学校不適応が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 ビジネスマネジメント専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 ビジネスマネジメント専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1740 単位時間	540 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		124 人	75 人	7 人の内数	15 人の内数	22 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	1 人 (3.1%)	26 人 (81.3%)	5 人 (15.6%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	12 人	11.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更が最も多く、次いで怠惰による学習の遅れ、家庭事情による帰国、金銭的問題学 が理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート 体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス 担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早 期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談 を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせ ている。		

・経営学科 流通・マーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 流通・マーケティング専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1800 単位時間	480 単位時間			
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		34 人	17 人	7 人の内数	11 人の内数	18 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	1 人 (7.7%)	10 人 (76.9%)	2 人 (15.4%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	3 人	9.1%
（中途退学の主な理由） 学校不適応、怠惰による学習の遅れが主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 グローバルビジネス専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 グローバルビジネス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1980 単位時間	300 単位時間			
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		41 人	36 人	7 人の内数	11 人の内数	18 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (85.7%)	2 人 (14.3%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	6 人	13.6%
（中途退学の主な理由） 家庭事情による帰国が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 会計ファイナンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 会計ファイナンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1680 単位時間	600 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		9 人	0 人	5 人の内数	14 人の内数	19 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	1 人	11.1%
（中途退学の主な理由） 経済的理由が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 宅建・FP専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 宅建・FP専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1740 単位時間	540 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人の内数		36 人	3 人	5 人の内数	9 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (92.3%)	1 人 (7.7%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	5 人	15.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更が最も多く、次いでメンタルシック等による体調不良、怠惰による学習の遅れが理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1140 単位時間	1140 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		32 人	1 人	8 人の内数	6 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	9 人 （ 90%）	1 人 （ 10%）
（主な就職、業界等） 情報サービス、専門商社、小売、各種メーカー、コンサルタント業 等他業種			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） FP 技能士 3 級、商品プランナー他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	7 人	25.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更が最も多く、その他体調不良が理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	960 単位時間	240 単位時間	1080 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		25 人	0 人	6 人の内数	6 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	5 人	17.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更とメンタルシックが主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	960 単位時間	240 単位時間	1080 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人の紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 SNSマーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ファッションビジネス学科 SNSマーケティング専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	960 単位時間	240 単位時間	1080 単位時間		
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人の紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ I T ビジネス学科 プログラマー専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ITビジネス学科 プログラマー専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1560 単位時間	720 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		56 人	34 人	3 人の内数	9 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4．を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (91.3%)	2 人 (8.7%)
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58 人	5 人	8.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更が最も多く、次いで怠惰による学習の遅れ、経済的理由が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ A I システム学科 A I エンジニア専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	A I システム学科 A I エンジニア専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1560 単位時間	720 単位時間			
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		20 人	11 人	4 人の内数	11 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	3 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	5.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ A I システム学科 データサイエンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	A I システム学科 データサイエンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1680 単位時間	600 単位時間			
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		7 人	5 人	1 人の内数	10 人の内数	11 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照	
学修支援等	
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1500 単位時間	600 単位時間	180 単位時間		
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		19 人	0 人	9 人の内数	11 人の内数	20 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	2 人	9.5%
（中途退学の主な理由） メンタルシック、進路変更が主な要因である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1200 単位時間	720 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		12 人	0 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	8 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門課程		スポーツビジネス学科 スポーツショップスタッフ 専攻		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1,800 単位時間		1440 単位時間	540 単位時間	300 単位時間			
				単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数		0 人の内数		18 人の 内数	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照									
成績評価の基準・方法									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照									
卒業・進級の認定基準									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照									
学修支援等									
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。									

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間	1740 単位時間	180 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		0人	0人	0人の内数	0人の内数	0人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ペットビジネス学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門課程	ペットビジネス学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1,800 単位時間	900 単位時間	60 単位時間	1320 単位時間			
			単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人の内数		98 人	2 人	10 人の内数	17 人の内数	27 人の 内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (88.2%)	4 人 (11.8%)
（主な就職、業界等） 動物病院、ペットサロン、ペットショップ他			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 21世紀アカデミア認定ライセンストリマーC級、トレーナーC級他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87 人	9 人	10.3%
（中途退学の主な理由） メンタルシック等による体調不良が多く、続いて進路変更、学校不適應が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・愛玩動物看護学科

分野		課程名	学科名	専門士			高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程	愛玩動物看護学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2,700 単位時間	2700 単位時間	120 単位時間	600 単位時間			
			単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人の内数		102 人	0 人	4 人の内数	12 人の内数	16 人の 内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	1 人 (3.8%)	23 人 (88.5%)	2 人 (7.7%)
（主な就職、業界等） 動物病院、ペットサロン、ペットショップ他			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 愛玩動物看護師、21世紀アカデメイア認定ライセンストリマーC級、 トレーナーC級他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96 人	6 人	6.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更が多く、続いてメンタルシック等による体調不良が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
オフィスビジネス学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
フラワービジネス学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
経営学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
ビジネスデザイン学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
ファッション ビジネス学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
I Tビジネス 学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
A I システム 学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
スポーツビ ジネス学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
ペットビジ ネス学科 (2年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
愛玩動物看護 学科 (3年制)	170,000 円	880,000 円	237,000 円	施設費、校友会費 他
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 令和6年度評価について、学校HPで公開している。 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tba_evaluation_2025.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者として、有識者、卒業生などを含む学校関係評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育目標、学校運営、教育活動等について評価を行っている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
短期大学教員	2025.4.1～2026.3.31	有識者
I T 関連会社経営	2025.4.1～2026.3.31	卒業生
コンサルティング事業代表者	2025.4.1～2026.3.31	企業関連者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 令和6年度評価について、学校HPで公開している。 「自己点検評価報告書」内 p. 6～19 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tba_evaluation_2025.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tsb-yyg.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311300247
学校名 (〇〇大学 等)	専門学校東京ビジネス・アカデミー
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 2 1 世紀アカデメイア

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		80 人 （-人）	72 人 （-人）	83 人 （-人）
内 訳	第Ⅰ区分	46 人	37 人	
	（うち多子世帯）	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	14 人	20 人	
	（うち多子世帯）	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	16 人	12 人	
	（うち多子世帯）	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	- 人	- 人	
	区分外（多子世帯）	0 人	0 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人 （-人）
合計（年間）				83 人 （-人）
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-人	0人	-人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-人	-人	-人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-人	0人	-人
計	-人	-人	-人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	-人	前半期	-人
		後半期	-人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	20人	17人	-人
計	20人	17人	-人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。